平成３１年度学校自己評価システムシート（さいたま市立大宮西高等学校）

目指す学校像	確かな学力と豊かな人間性を育て、グローバル化社会に適応できる生徒を育成する。

重点目標	
	１本校の最終年度と中等教育学校の初年度を迎え、高校３年生と中等１年生とが相互に影響し合い、それぞれの成長に有意義な取組みを実践する。
	２新成人として求められる自覚を醸成するため、学校生活の内外において様々な公共のルールやマナーを意識させ、実行させる。
	３全ての生徒の進路希望の実現に向けた取組みを通して、最後まで諦めずにやり抜く力を身に付けさせる。
	４グローバルな視野を持って社会で活躍できる資質を身に付けさせるため、国際交流の機会等を通じて意識の高揚を図る。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

※重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（２月１日現在）			実施日　平成　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○本校の最終年度と中等教育学校の初年度を迎え、両校の施設を共用することや中等教育学校校舎の教育活動スペースを利用することが可能であるなか、生徒の学習活動が効率よくそして満足できる内容となるように工夫する必要がある。さらに学習環境の整備や授業展開の改善に努め、生徒の意識向上に繋がるようにする必要がある。	本校の特別教室・空き教室や中等教育学校校舎の教育活動スペースの有効利用について	1　生徒の教育活動の場を確保する。 2　中等教育学校と施設を共用する際は適切な対応を取り、行事等に対する生徒の満足度を維持する。 3　中等教育学校と連絡を密に取り、新たな教育活動スペースの利用など教職員間で共通理解を図るとともに、生徒へ情報提供をしっかりと行う。	1　生徒が不便を感じずに学校生活を送れたかどうか。 2中等教育学校と打合せを定期的におこない、スムーズな教育活動の展開ができたか。				
		学習意欲の向上と学習内容の定着	1　個別指導を充実させるため課業日の補習等を幅広く実施する。 2　グローバルスタディールームの利用の促進を通じて、自主学習に集中できるよう環境を整備する。	1　課業日の補習が計画的に行われているか。 2　グローバルスタディールームが年間を通じて有効に活用されているか。				
2	○生徒の多くは、明るく活発な様子であり、特に学校行事においては、積極的に取り組み、その成果を上げている。その反面、頭髪や服装の乱れ・朝の遅刻など、改善を要する生徒も見受けられる。そこで、公共のマナーやルールを生徒が自ら考え守れるように、指導する。 ○学校行事や部活動・委員会活動を通して、今まで積み上げてきた西高の伝統に、さらなる要素(全ての生徒は、「自ら考え、努力すれば」必ず主役となれる場面や機会)を加え、たくましく生きていける生徒を育てる。	学校生活において公共のルールやマナーを身につける。	1　３年生としての自覚を持たせ、生徒自ら身だしなみを整える環境作りを行い、基本的生活習慣を確立させる。 2　無断欠席等があった場合は、必ずホームルーム担任が家庭と連絡をとり、状況を確認する。 3　登下校時における、公共・交通マナーを向上させることにより、他者への配慮と交通安全意識を一層高め、地域との共生を図る。	1　服装頭髪指導や遅刻指導等の対象者が、前年度と比較し減少したか。 2　無断欠席等が無かったか、または、あっても、その都度、担任が家庭と連絡を取り合えていたか。 3　登下校時の交通事故が無く、近隣からのマナー違反についての苦情が無かったか。				
		生徒のリーダーシップの育成と世界に貢献できる人格の形成	1　生徒会活動・部活動・学校行事を柱に、生徒一人ひとりが活発に活動できる機会を設け、自分の考えを述べ、他者の意見を聴き、お互いに協調しながら成果を出す経験を積ませる。 2　中等教育学校との相互理解できる取り組みを模索し、相互に良い影響を及ぼす結果を導き出す。 3　家庭および学校生活における悩みを抱えている生徒に対して、必要に応じて、学校職員(担任・部活動の顧問・学年主任・教科担当・進路担当等)やスクールカウンセラーによる面談を実施する。	1　全校生徒が取り組む学校行事をサンプルとし、その成果が満足のいく内容であったか。そして、その満足度が90％を超えているか。 2　最初で最後の取り組みとなるが、双方の生徒・職員が共通理解のもとで、行う事ができたか。 3　必要に応じた面接指導が、適切に行われたか。				
3	○大学の定員厳格化により難関大学への進学が厳しくなる中、多くの生徒が上級学校への進学を目指して、計画的に取り組んでいる。しかし、中には具体的な取りかかりが遅れ、実力を発揮できない生徒もいる。そのため、早い段階からきめ細かい進路指導を繰り返し行う必要がある。	生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の取組	1　オンライン予備校を生徒全員加入とし、生徒一人ひとりの実力と進路希望に合わせた対策講座を受講させる。 2　平日や土曜日、長期休業中の補習を開講し、受験に特化した講義を受ける機会を設ける。 3　面接指導・小論文指導を全教員で行う。 4　校外模試等を利用し、結果を分析することで、生徒の進路実現に向けた個別指導を充実させる。 5　推薦入試等で進路が決定した生徒には、学力の向上を図るために、センター試験や各種検定試験を受験することを促す。	1　オンライン予備校を利用することによって家庭学習時間が増加したか。 2　補習の参加者の人数が増加したか。 3　生徒個々に応じた面接指導や小論文指導が行えたか。 4　校外模試等の結果を生徒の進路指導に役立てられたか。 5　大学進学者のセンター試験受験比率が増加したか。各種検定試験の受験者数が増加したか。				
4	○地域に根ざした学校にするため、ＨＰ等を充実させ情報を発信すると共に、学校行事等で地域住民と交流し、情報交換などをする必要がある。また、グローバル化先進校として、国際交流の機会を適切に設定してきたが、生徒の異文化知識や理解がやや不足している。	地域に根差した学校づくりと国際社会へ開かれた学校づくりを推進	1　学校行事（文化祭等）に地域住民の方を招き、本校生徒の活動を見る機会を設ける。 2　随時ＨＰを更新することで、本校の魅力を保護者や地域等に伝える。 3　海外研修の機会や留学生との交流、韓国語研修を通じ、異文化知識や理解を深める。	1　文化祭等における地域住民の参加者数が増加したか。 2　ＨＰを随時更新し情報発信をすることができたか。 3　短期研修後に全校生徒対象に報告会を行う。				